

# 障害者自立支援機器等開発促進事業

(平成30年度予算 150,143千円)

## 事業目的

障害者の自立や社会参加を支援する機器や技術の開発は、マーケットが小さい、経費的な問題からモニター評価が行えないといった理由から、実用的製品化が進んでいない状況にある。そこで、開発企業が障害当事者と連携して開発する取組に対して助成を行うことで、障害者にとって使いやすく適切な価格の機器の実用的製品化を促進する。

## 事業内容

- (1) 障害者の自立支援機器の開発(実用的製品化)に対する助成
- (2) シーズ・ニーズマッチング強化事業
- (3) 障害者自立支援機器導入好事例普及事業

## 実施主体

民間団体 ((1)は、民間団体が開発企業等を公募して開発費を助成)

## 補助率

(1)は2/3(大企業は1/2)、(2)・(3)は定額(10/10相当)

ニーズ把握から製品販売までのイメージ図

### シーズとニーズのマッチング

ユーザー・支援者  
(ニーズ)



障害者、家族  
事業所職員等

支援機器に関する  
ニーズ、生活におけ  
る困りごと等を開発  
側に伝える。

開発・研究者  
(シーズ)



開発企業、研究者  
等

障害当事者との意  
見交換にてニーズを  
把握、開発の着想を  
得る。

(2) シーズ・ニーズマッチング強化事業

### 開発 ~ 試作 ~ 実証実験 ~ 製品化

ニーズを的確に捉えた  
支援機器の開発着手



(1) 実用的製品化開発に要する費用の助成  
※研究段階を終え基本設計はできているが、試作機の製作までには至っていないものが対象

### 製品の普及

実用的製品化

普及

障害者自立支援機器  
導入好事例普及事業

・機器導入好事例の表彰  
・開発機器の全国広報  
など



(3) 障害者自立支援機器導入好事例普及事業

# 障害者自立支援機器等開発促進事業 開発テーマ（平成30年度）

- 1 肢体不自由者の日常生活支援機器
- 2 視覚障害者の日常生活支援機器
- 3 聴覚障害者の日常生活支援機器
- 4 盲ろう者の日常生活支援機器
- 5 難病患者等の日常生活支援機器
- 6 障害者の就労を支援する機器
- 7 障害者のコミュニケーションを支援する機器
- 8 障害者のレクリエーション活動を支援する機器
- 9 障害児の生活を豊かにするための支援機器
- 10 ロボット技術を活用した障害者むけ支援機器
- 11 脳科学の成果（研究段階のものを除く）を応用した支援機器
- 12 障害者の支援をより行いやすくなる支援機器
- 13 その他 ※福祉用具ニーズ情報収集・提供システムに寄せられた意見・要望

※福祉用具ニーズ情報収集・提供システム：<http://www.techno-aids.or.jp/>

平成22年2月から一般財団法人 テクノエイド協会によって運用されている、**福祉用具の利用者の声を開発者側と結ぶ**ウェブサイト。福祉用具に関する掲示板として、インターネットを通じて、**自宅から誰でも手軽に活用できる**システムとなっており、寄せられた要望・アイデアは、福祉用具の開発者の方へ定期的に届けられる。

厚生労働省ホームページ 【障害者自立支援機器等開発促進事業】  
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/cyousajigyou/>